

平成29年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 平成29年4月19日（水）

2 調査対象 品川区立学校 第2～9学年の全児童・生徒

3 調査内容

(1)教科に関する調査

○調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用
の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～6学年> 国語、社会、算数、理科

<第7～9学年> 国語、社会、数学、理科、英語

品川区立山中小学校

国語 (実施学年 2～6年)

(1) 国語の定着状況についての概要

		国語への関心・ 意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
2年	目標値	75.6	71.0	78.1	66.4	90.0
	全国正答率	81.0	75.3	84.8	69.6	95.7
	校内正答率	85.5	81.3	88.3	76.6	97.2
3年	目標値	65.6	63.0	65.6	64.3	80.9
	全国正答率	71.8	67.8	74.3	70.9	89.1
	校内正答率	71.7	71.9	70.2	72.9	93.3
4年	目標値	68.1	71.1	61.4	63.9	67.4
	全国正答率	68.3	70.6	62.3	68.9	72.8
	校内正答率	71.0	73.5	67.6	70.9	78.8
5年	目標値	65.6	75.0	58.5	73.4	68.4
	全国正答率	76.4	87.4	70.2	79.7	72.9
	校内正答率	76.6	89.6	71.6	78.4	76.6
6年	目標値	65.6	60.0	67.3	72.2	69.2
	全国正答率	70.6	67.6	70.0	78.3	74.9
	校内正答率	75.4	69.5	68.4	65.4	79.1

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

昨年度まで、第4学年で行っていた学力定着度調査では、言語事項（主語・述語・修飾語などの文法に関する知識、ローマ字や漢字辞典の引き方、漢字の部首などの語句に関する知識）において、目標値より－1.4ポイントと少々下回ったが、その他は上回っていた。今年度は、どの学年も目標値に対し同程度か上回るものがほとんどである。

(2) 具体的な課題とその要因

どの観点も目標値より5ポイント以上下回るものはなく、おおむね達成しているといえる。

実際の設問では、第3学年「経験・想像したことの中から書くことを決め、自分の考えを明確に書く」第4学年「与えられた情報を読み取り、発表のテーマと発表の仕方の工夫を理解する」第6学年「漢字の成り立ち」「同訓異字」「2段落構成で文章を書く」の正答率が低かった。

文章を構成したり、書いたりすることや、漢字の正しい使い分けに課題があると考えられる。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

「書く能力」を高めていくために、書くために必要な事柄を集めたり、調べたり、整理したりできるように、知らせる相手、目的などを意識させ、視点をもたせる。そこから構成メモ、記述へと段階を追って指導を進めていく。推敲をして完成したものを全体で読み合ったり、良い文章を発表したりすることで、成就感や達成感をもたせるようにする。

次年度の数値目標は、全国正答率より上を目指す。さらに、どの観点でも目標値の＋5ポイント以上を目指す。

社会 (実施学年 4～6年)

(1) 社会科の定着状況についての概要

		社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
4年	目標値	63.8	64.7	72.1	75.5
	全国正答率	62.4	66.4	76.0	78.1
	校内正答率	62.1	64.9	72.0	75.4
5年	目標値	66.0	65.2	67.9	70.2
	全国正答率	68.5	68.4	69.0	71.8
	校内正答率	69.9	70.6	71.3	74.2
6年	目標値	64.2	65.0	69.4	68.3
	全国正答率	68.5	67.7	72.2	70.9
	校内正答率	66.7	66.8	70.0	70.9

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

昨年度まで、第4学年で行っていた学力定着度調査では、資料の読み取りや、そこからの関連性や事実を読み取ることが、目標値の－5ポイント未満であった。今年度は、どの学年も目標値に対し同程度か観点によっては上回るものもある。しかし、全国正答率と校内正答率を比較すると、大きく下回ることはないものの、同程度かやや下回る観点もある。

(2) 具体的な課題とその要因

どの観点も目標値より5ポイント以上下回るものはなく、おおむね基本的な学習内容は身に付いているといえる。設問によっては、正答率の低い「観察・資料活用の技能」の力を伸ばしていく。

実際の設問では、第4学年「工場の生産物の出荷に関する資料から、他地域などのかかわりについて読み取る」第5学年「県全体の交通網の様子について地図を読み取る」や第6学年「工業地帯や主な工業地域の分布に関する資料から、現状や特色について読み取る」などの正答率が低かった。一方で用語（地図記号や都道府県の位置、太平洋ベルト等）を問う問題の正答率は高かった。知識を活用し、資料から関連を考えたり、事実を正しく読み取ったりすることに課題があると考えられる。

(3) 課題解決のための方策と次年度の数値目標

「観察・資料活用の技能」の力を伸ばしていくために、地図や写真、グラフや表から読み取る学習活動を意図的に授業の中で取り入れていく。グループで話し合いをするなど、読み取ったことを伝え合う活動を通して、資料をもとに多面的に理解させ、そこから知識の習得にもつなげていく。

次年度の数値目標は、全国正答率より上を目指す。さらに、どの観点でも目標値の＋5ポイント以上を目指す。

算数（実施学年2～6年）

（1）算数の定着状況についての概要

		算数への関心・ 意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形 についての技能	数量や図形につい ての知識・理解
2年	目標値	65.6	70.7	82.5	83.1
	全国正答率	66.5	72.5	86.2	87.6
	校内正答率	73.5	76.6	88.0	84.6
3年	目標値	56.5	63.9	76.9	69.8
	全国正答率	58.2	68.6	80.0	75.6
	校内正答率	55.9	67.5	80.5	71.8
4年	目標値	67.5	60.6	76.1	74.0
	全国正答率	71.0	66.1	79.8	77.0
	校内正答率	75.4	73.6	83.8	81.0
5年	目標値	59.3	60.2	71.4	70.3
	全国正答率	62.8	63.8	74.2	72.6
	校内正答率	67.0	62.9	76.9	75.3
6年	目標値	40.0	56.1	71.0	68.6
	全国正答率	37.2	56.1	71.7	72.2
	校内正答率	41.5	57.3	71.3	71.6

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

昨年度、第4学年で行った学力定着度調査では、どの観点においても基本的な学習内容は身に付いていた。

今年度はどの学年も、目標値に対し、同程度か観点や学年によっては上回っている。どの観点も目標値より5ポイント以上下回るものはなく、おおむね基本的な学習内容は身に付いているといえる。しかし、全国正答率と比較すると同程度か、下回るものもある。

（2）具体的な課題とその要因

実際の設定問では、「数量や図形の知識・理解」に課題があり、設問別に見ていくと「量と測定」の領域（長さ・重さ・角・面積等を扱う学習）の正答率が低かった。

特に、第4学年「地図から二つの道のりを読み取り、その合計の長さの大小を比較する」や、第5学年「 180° より大きい角の大きさの見当をつける」、第6学年「高さが図形の外にある平行四辺形で、面積をもとめるために必要な長さや場所がわかる」が低かった。長さや角の大きさなどを、数字や公式などの言葉だけで捉え、量感をもてていないことが要因だと考えられる。

（3）課題解決のための方策と次年度の数値目標

「量と測定」の力を高めていくために、授業の中で、児童一人一人が測定をするなどの、算数的な活動を取り入れ、量感をもてるようにする。また、できるだけ実生活に沿って考えられるような学習を進めていく。

次年度の数値目標は、全国正答率より上を目指す。さらに、どの観点でも目標値の+5ポイント以上を目指す。

理科（実施学年4～6年）

（1）理科の定着状況についての概要

		自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な 思考・表現	観察・実験の 技能	自然事象についての 知識・理解
4年	目標値	67.7	58.4	64.4	67.2
	全国正答率	73.0	62.5	66.5	71.5
	校内正答率	67.6	58.7	57.3	65.6
5年	目標値	61.1	54.8	71.3	66.3
	全国正答率	66.3	56.3	79.3	70.7
	校内正答率	61.1	51.1	75.4	64.4
6年	目標値	70.4	62.6	60.0	68.2
	全国正答率	77.2	67.7	64.4	73.1
	校内正答率	74.2	62.5	60.5	71.7

※目標値…学習指導要領に示された内容について、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合

校内正答率と目標値を比較すると、おおむねどの観点においても同程度であった。しかし校内正答率と全国正答率との比較では、5ポイント以上下回っている観点が複数あった。

昨年度まで第4学年で行っていた学力定着度調査では、科学的な知識や思考を表現することが課題であった。今年度においても、実際の設問を見ると、同様の傾向が読み取れた。

（2）具体的な課題とその要因

全国正答率との比較では、全体の底上げが必要だと言える。実際の設問を見ると、特に以下のような課題が挙げられる。

①科学的な用語について理解すること

同じ単元の内容において、科学的な思考を問う設問の正答率が高くても、「子葉」「回路」といった用語を書く設問の正答率が低い事例が多かった。授業の中で科学的な用語の定義を理解できていないことが要因だと考えられる。

②考えたことを表現する力を付けること

「実験方法の間違いを説明する」といった設問の正答率が低い事例が多かった。授業の中で自分の考えを表現する機会が不足していることが要因だと考えられる。

（3）課題解決のための方策と次年度の数値目標

科学的な用語を確実に理解させるため、単元の最後には、これまでの学習を振り返ってノートにまとめる活動を設定する。単元全てを1時間の中でまとめさせることで、知識の系統的な理解につなげる。

表現する力を付けるために、学習活動の中で、自分の予想の根拠を説明する、実験結果の考察を班で話し合う、といった機会を設定する。考えたことを表現する中で、科学的な思考力を伸ばしていく。

次年度は、全ての観点で校内正答率が目標値を上回るようにする。